

コード No. 10343

**Anti-mTOR (N5D11) Mouse IgG MoAb**容量 : 100 µg  
ロット No. :

はじめに : ラパマイシンは免疫抑制効果、抗がん効果、心臓冠状動脈治療における再狭窄防止効果等を有するマクロライド系有機化合物です。mTOR (Mammalian target of rapamycin)はその名の通りラパマイシンの細胞内標的であり、約 290 kDa のセリン/スレオニンタンパク質リン酸化酵素です。mTOR は、哺乳類動物の栄養環境を感知するシグナル伝達系において、中心的役割を果たすことが明らかになりつつあります。その下流エフェクターである p70S6 kinase (p70S6k) および翻訳開始因子 eIF4E に結合する eIF4E-binding protein1 を介し、タンパク質翻訳制御をおこなうことにより細胞成長を制御しています。

免疫抗原 : Recombinant Rat mTOR

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ(培養上清)  
(X63-Ag8.653×BALB/c マウス脾臓細胞)クローン名 : N5D11 サブクラス : IgG<sub>1</sub>

精製方法 : 抗マウス IgG カラムによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8 °C 保存 5 年間安定  
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定使用目的及び使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 約 1 µg/mL にて使用可能  
免疫沈降反応 約 3~5 µg/test にて使用可能特異性 : ラット、ヒトの mTOR に反応  
組み換え体、自然体どちらも検出可能文献 : Nishiuma T, Hara K, Tsujishita Y, Kaneko K, Shii K, Yonezawa K  
Characterization of the phosphoproteins and protein kinase activity in mTOR immunoprecipitates. Biochem Biophys Res Commun. 1998 Nov 18;252(2):440-4